

『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第6号(2008年5月13日)「人民元預金ブーム」



まず始めに、残念なお知らせがあります。東京上野動物園で長年活躍したジャイアントパンダのリンリンが、2008年4月30日他界しました。リンリンは、上野動物園のシンボリックな存在であり、世界でも数少ない中国から贈呈されたパンダです。来園者を優しく癒し、年齢問わず人々から愛されていました。中国と日本のかけ橋として立派に全うしたことに敬意を示し、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

香港人の人民元預金が急増？！

香港市民の間で人民元預金の人気が高まっています。香港と中国本土の都市深センの距離はとて近く、電車で約1時間程度のところに位置していますが、資産運用に敏感な香港人は、今、競って深センで人民元預金口座を開いています。

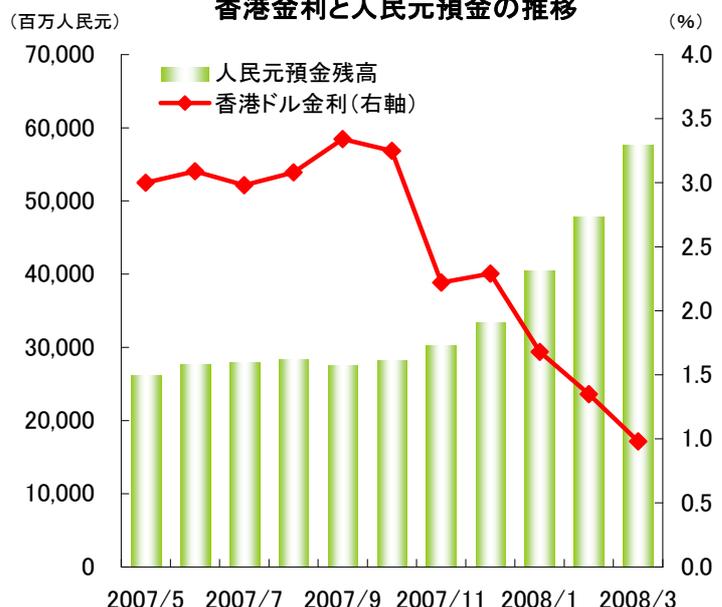


右の図を見ると、香港の利下げに伴い、人民元預金の残高が急増しているのが見て取れます。現実的で賢い香港人投資家の投資行動が反映しているといえます。

背景には、着実に進んでいる人民元高と香港をはるかに上回る預金金利の高さがあります。今まで彼らは、人民元切り上げの恩恵を受けるH株(中国本土企業株)を中心とした株式や香港や中国の不動産を投資対象に投資してきました。

しかし、昨今のサブプライムローン問題をきっかけに、香港を取り巻く投資環境が一変、株式市場が調整する中で、香港の個人マネーも行き場を失いました。そこで、こうした局面での堅実な運用先として、人民元預金への注目が高まってきているのです。

香港金利と人民元預金の推移



出所: 香港金融管理局
 (2008年5月現在)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



香港人は、資産運用が上手！

(2008年5月現在)

香港はドルペッグ制なので、米国の利下げに追随し、利下げを余儀なくされています。右の表を見ると、人民元預金と香港ドル預金では、約5倍程度の金利格差が出ています。更に重要なことは、人民元預金をする際、中国本土と香港の銀行でも約5倍の差がついています。

	人民元預金		香港ドル預金
	中国本土銀行 10万人民元以下	香港の銀行 10万人民元以下	香港の銀行 10万香港ドル以下
定期3ヶ月	3.33%	0.65%	0.47%
定期6ヶ月	3.78%	0.71%	0.58%

賢い香港人は、このような金利差に着目し人民元預金をしているのです。

最近では、週末に香港から最も近い中国本土の深センへ行つて、預金口座開設のカウンターで香港人が列をなす風景が見られるようです。

ドルペッグ制とは？

ペッグとは、日本語で『クギを打つ』という意味。自国通貨の為替相場を米ドルに連動させる固定相場制のこと。(変動相場制にしても経済危機に陥らないために、強い国力と国際競争力などが必要。)ペッグ制は、経済の安定性を図り、為替リスクを低減する目的があります。

中国銀行によると、香港人が中国本土で銀行口座を開くのは簡単とのことで、回郷証(香港、マカオ、台湾在住の中国籍の人に発行される一種の身分証明書のようなもの。)と、最低でも100人民元(約1,500円)さえあれば誰でも定期預金口座を開くことができます。また口座開設後は、香港支店から深センの口座に送金することが可能で、口座開設さえ済ませれば、すべて香港から手続きや管理をすることができます。

ただし、当然ながら送金には送金手数料がかかります。香港から深センに送金する場合、電信送金の手数料は、1回につき通常170香港ドル(約2,500円)必要となります。大口預金者であれば1回100香港ドル(約1,470円)です。ある銀行の場合、インターネット送金を利用すれば、富裕層にはさらに通常の半額の手数料で1回50香港ドル(約735円)での送金可能です。

もちろん電車で深センに行き、自分で現金を持ち込む人もいますようです。香港から中国本土への現金の持ち込みには、1回につき最高2万人民元(約30万円)までという制限がありますが、中国本土の銀行の多くは土日でも午後4時まで営業していることから、週末に深センに行き、預金することも可能です。このようなことから、週末の口座開設カウンターが香港人だらけになっているのです。

一方、人民元の対外送金にも制限があります。1日の対外電信送金額は8万人民元(約120万円)を超過してはならず、また電信送金により本土銀行から香港に戻ることができるのは、当初香港から中国本土の銀行に電信送金した預金とその利息のみです。また本土には利息税もあり、その他、送金手数料や電車代などを勘案すると、10万人民元(約150万円)以上の定期預金でなければ、割に合わないとする専門家の意見もあるようです。

いずれにせよ、こうした香港人の賢い資産運用を私たち日本人も見習いたいところです。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



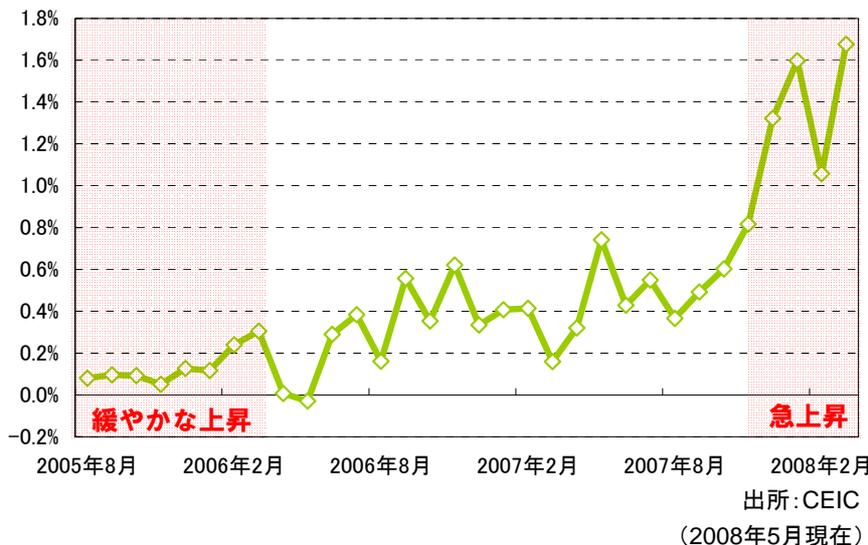
人民元預金・・・更に加速？！

2008年4月29～30日開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)で、アメリカはFF金利を0.25%引下げ2.0%とすることを決定しました。

これにより米国と中国の金利差はさらに拡大し、4月10日人民元の対米ドル相場は1ドル＝7人民元を割り込んで、人民元高が進みました。今回の人民元高で2005年8月以降の上昇率は約16%、2008年初めから見ると、上昇率はすでに4%に達しています。また過去において緩やかな上昇率も直近を見ると急上昇しています。

このようにアメリカの利下げ姿勢が止まない限りは、人民元高になることが予想されますので、香港人の人民元預金のブームは、今後もしばらく続くのではないのでしょうか。

人民元対米ドルの上昇率の推移(月間)



FOMCとは？

アメリカの中央銀行である米連邦準備制度理事会(FRB)が年8回、定期的に関米金融政策の最高意思決定会合です。FRBの議長、理事と地区連邦準備銀行総裁らで構成され、短期金利の誘導目標などを決めています。

FF金利とは？

民間銀行は連邦準備銀行に預金残高の一定割合を預け入れることが義務付けられています。この義務付けられた金額が不足している時などには、余剰が出ている銀行から資金を調達します。その資金を短期市場で調達する際の金利をフェデラル・ファンド金利(FF金利・FFレート)といいます。

(見に行っちゃいな)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。